

# 富房(とみふさ)

登録番号: 第2057号

登録年月日: 平成元年9月19日

登録者: 千葉県

(千葉市中央区市場町1-1)

育成者: 中井滋郎 八幡茂木 橘 温

森岡節夫

来歴: 「津雲」と「瑞穂」の交雑

実生

## 特 性

### ■栽培特性

成木での樹勢は中位であるが、5～6年生時までは長大な副梢を伸ばし、おう盛な発育を示す。枝の分岐角度が狭く、直立性の樹姿となる。若木のうちはそのおう盛な発育と相まって、直立の度合いは特に強い。結果樹齢に達するのが早く、花房の着生がよいので、樹勢はほどなく落ち着き、以後の発育伸長は緩慢となり、あまり大型の樹にはならない。

開花期は11月上旬～1月中旬で開花始めがやや早く、終りは「田中」とほぼ同等である。花房は大型で、「瑞穂」の花房のように長い側花梗を伸ばし、着生花数が多い。側花梗の着生方向は水平またはやや下向きで、低温に遭遇すると下方に湾曲するが、その度合いは「田中」程ではない。開花期と花房の形態からみて、「富房」の花器の耐寒性は中位で、「瑞穂」と同程度と考えられる。成熟期は育成地(館山市)で5月下旬～6月上旬で、当地の早生品種「楠」に近い収穫期で、大果系品種の中では熟期が最も早いといえる。

### ■果実の特性

果形は短卵形で「田中」に似るが、果梗部が張りやや丸みを帯びている。稜は不明瞭で果実の横断面は円形である。通常の着果程度での1果平均重は70gである。果皮はやや黄色の強い橙黄色で、光沢があり美麗である。果肉も果皮と同様な橙黄色で、肉質は締まっているが歯触りに抵抗感はない。果汁のBrixは10.5～11.5でピワとしては中位で、「田中」よりはやや高い。果汁のリンゴ酸換算濃度は0.2～0.3g/100mlで「田中」より著しく低い。果面に発生する生理障害は概して少なく、「赤あざ」と「そばかす」が若干見られる程度である。また、締まった肉質により荷傷みにくく、輸送性および日持ち性が高い。

### ■病虫害抵抗性

がんしゅ病については「田中」と同等もしくはやや強いと考えられ、ピワ栽培の処女地では問題がない。しかし、がんしゅ病は栽培地の立地条件により発生に著しい差異がみられるので、連作園などで病菌の密度の高い場所や樹勢が衰えた場合には、その発生が高まる場合があるものと思われる。このほか病害虫については他の品種と変わるところがない。

### ■地域適応性および栽培上の留意点

耐寒性は特に強い方ではないので、栽培にはまず第一に適地を選ぶことが大切であるが、現在ピワの栽培されている地帯への適応性はあるものと考えられる。温度条件に不安のある場合には、花房内の花数が多く、開花期の幅が広いというこの品種の特性を利用して、早期摘蕾による寒害軽減法を適用すると効果が高い。

土壌条件は特に選ばないが、花房の着生がよく、連年よく結果するので、着果過多による衰弱を起こさないように結実管理、肥培管理には十分な配慮が必要である。

枝の分岐角度が狭く、樹が直立性を示すので仕立て方に注意が必要である。露地栽培では、主幹2m程度、主枝数4～5本の変則主幹形の樹形が適し、若齢時には枝の誘引をして、開張型樹形に導くとよい。

現在、この品種の栽培は千葉県内に限られており、露地およびハウス栽培の両方に増殖されている。  
(中井滋郎)